

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000074		
法人名	社会福祉法人 あすか福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム 和庵 2ユニット		
所在地	長崎県対馬市厳原町国分1428番地1		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成31年2月23日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆さまにおいては、お一人お一人の心身の状態に応じて洗濯等、一緒に生活する中で、何かしらの役割を持ち、張り合いを持って生活していただけるよう働きかけを行うよう、スタッフが職務にあたり、御家族と医療機関の連携が図りやすいように訪問看護師のきせつなアドバイスを頂きながらできるだけ入院することなく過ごせるよう取り組んでいる。又、折々の季節に応じて旬の食物を提供したり、行事計画を通し、同一事業所の保育園児との交流を取り入れたりと力を入れています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人理念の”尊厳”を柱に、”入居者の権利を尊重し、生活の質を向上するためのサービスを提供します”を介護方針としている。リビングを含め共用空間は、広々として明るく清潔感に溢れている。職員は入居者が自宅にいるような生活を送ることができるよう支援を行っており、入居者の笑顔から理念が具現化していることが確認できる。入居者ごとの介護日誌には、個別の支援内容を記載しており、毎日内容を確認し、確実に実行できるよう工夫を行っている。更にこのことは職員間の支援内容の共有と記録作業の負担軽減にも役立っている。事業所は、かかりつけ医を尊重し、継続した受診支援を行っている。内科以外の診療科も含め、管理者2名による手厚い通院介助を行っている。訪問看護ステーションの訪問もあり、本人・家族にとって安心できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である「尊厳」を柱に、ご入居者お一人お一人が地域の一員として、その人らしく生活していただけるよう、日常生活の会話、生活の様子から自己決定できるように取り組んでいる。	理念に基づき、「入居者の権利を尊重し、生活の質を向上するためのサービスを提供します」を介護方針としている。管理者は、新人職員に入居者への言葉掛けの配慮等、理念の意識付けを行っている。職員は、ここでの暮らしが在宅生活の延長上となるよう、本人本位の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域包括支援センター。地区の区長さん・地元消防団員の皆様と連携を図り。近隣住民との挨拶。病院受診時の知人との触れ合いを大切にしている。	自治会に加入しており、回覧板や地区区長から地域情報を得ている。事業所では、近隣住民から衣類の提供を受けたり、近隣の独り暮らしの高齢者に敬老会等のイベント案内や台風予報時に声掛けしており、地域の一員として交流している。行事の際には保育園児やボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者のご家族・見学者・入居相談等の際には、個別に相談に応じてはいるが、地域全体には活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開始し、ご利用者の生活の様子を報告しながら、他職種の方々から様々なご意見や施設への要望等を知る事が出来ており、運営・サービスに活かす事が出来ている。	年6回、規程のメンバーで実施している。会議では入居者と職員の状況や活動報告の他、ヒヤリハット・事故報告を行っており、事業所の実情を伝え、参加メンバーから意見やアドバイスをもらっている。インフルエンザや健康管理の仕方、地域情報等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者をはじめ、地域包括センター職員や保護課担当者等とも、密に連絡を取り合いながら連携を図る事が出来ている。	行政担当者とは、運営推進会議で顔なじみであり、分からないことを問い合わせたり、入居者の暮らしぶり等伝えている。事故報告等は窓口を訪ねている。また、担当課から定期的に入居者の訪問があり、協力関係を築くよう努めている。行政から案内のある研修や講座に職員は参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束。語尾の使い方・玄関は昼間は開錠。スタッフ一同周知徹底して取り組んでいる。又、自分におきかえて、されたら嫌な事を念頭において行動している。	事故防止・身体拘束廃止委員会を設置しており、年3回内部研修を行っている。身体拘束に関する指針を職員に配布し周知している。咄嗟に出る言葉や語尾の強さ、声のトーン等職員同士で気付いたら注意しあっており、言葉の拘束にならないよう意識して支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の言葉かけの中で、お互いに注意しながらケアにあたっている。が、たまに危険を伴うような状況に遭遇した時は、大きな声で名前を呼んでしまう事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については現地点では活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度詳しく説明を行い、理解して頂いた上で同意書に記名・捺印をして頂いている。が、当日では納得は出来ていないようで、後日、「この事についてはどうやったかね」と説明を再度させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族代表の方にも参加して頂いている。又、玄関近くの窓口にご意見・ご要望の用紙を設置している。	重要事項説明書に、苦情の申出先と第三者委員の連絡先を記載している。この2年間苦情は出ていないことが確認できる。今年度、ホーム便りの誕生日のコーナーに、家族のコメントを入れる取り組みを始めている。日常では、家族の来訪時に要望を聞き取っており、食べ物の差入れについての質問があがっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の研修会・ミーティングを開催し、スタッフからの気づきや提案を業務に反映している。	有給休暇取得を推進し、労働環境に配慮していることが窺える。年に2回人事考課を実施し、パートの職員が正職員になった事例がある。月1回のユニット会議時に業務改善の検討を行っている。また2ヶ月に1度開催する管理者と幹部職員の会議で現状の報告と問題点を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事評価の中で、個人の頑張りや正当に評価されるよう普段から配慮している。又、自己評価を行う事で、自分自身を振り返りきっかけとなっている。給与もアップされやりがいに結びついていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修会の担当者を決めて、徐々に自己啓発出来るようになりつつある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会もあり、情報交換を行なっている。スタッフにおいては他事業所との交流の機会は少ないが、外部から研修に来て頂いたり勉強会を行う事が多少は出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、事前訪問を行い、ご本人お困りごとや不安に感じておられる事、要望等、ゆっくりお聴きする事で、少しでも安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも入居前に必ずゆっくりお話をする機会を作り、相談ごとや不安に感じておられることをお聴きし、出来る限り気持ちに寄り添う事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全項目の付けたしであるが、居宅ケアマネからの情報を頂いたり、又、居宅ケアマネ・ご家族・本人様・施設ケアマネでバトンタッチ(紹介)を兼ねて和やかな雰囲気が必要な支援を提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の状況を踏まえ、残存機能を十分に発揮していただきながら、生活の中で洗濯物を畳んだり、テーブル拭きをして頂いたり、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を細かくお伝えし、情報を共用し、外泊・外出の協力を頂きながら、スタッフ・御家族と一緒に本人を支援していく体制を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様は忘れていらっしゃるが、出来るだけ、親族の方に面会に来ていただいたり、お盆・お正月にはご自宅へ帰れるように、受入れ体制のお話を積極的に行なう努力をしている。	入居時に入居者の詳細な生活歴を聞き取っている。その後収集した情報は、申し送り帳に記入し職員間の周知を図っている。家族の他、友人の来訪もある。家族の協力を得て墓参りや選挙の投票に出掛けている。家族へ手紙を書いて投函したり、年賀状が届く人もいる。正月には初詣に出掛け、入居前の習慣を継続する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール(食堂)で食事以外に10時・15時のお茶会を提供し、気の合う仲間、一人が良いテーブル座席等を把握し、穏やかに時間が流れるよう支援に努めている。又、毎月の誕生会・行事の度に歌自慢をカラオケにて開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関・他施設に入居されても、月1回の面会を行っている。又、年賀状を出したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を大切に、日課や趣味、嗜好品等もアセスメントしている。ご本人からの聴き取りが困難な場合は、御家族、サービス提供事業所のスタッフ・ケアマネから情報を頂いている。	職員は、入居者の生活パターンを把握しており、起床の時間は自由であり、昼間過ごす場所についてもさまざまである。職員は、居室で入居者と1対1で会話し聞き取った内容を、個人の業務日誌の特記事項に記入し、周知を図っている。内容によっては家族へ伝え希望が叶うよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全項目と同じ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントは勿論であるが、日々の体調・心身の状況は変化する為、スタッフ間で記録や申し送りを密に行い、気付きを大切に情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	色々な視点からの気づきや提案を大事に、プランに把握するように努めている。	本人・家族の意向・要望を汲み、長期6ヶ月短期3ヶ月の目標を立てている。モニタリングは管理者が行っており、入居者ごとに個別援助項目を記載した介護記録日誌を参考にしている。訪問看護師も含め、管理者、職員がサービス担当者会議内で意見を出し合い、プランを見直している。作成した計画は、本人・家族の同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助の記録への日々の様子の記録は勿論の事、些細なきづきもスタッフ間で共有できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りのニーズに対応を心がけているが、柔軟な支援は、時と場合により後回しになる事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も、南保育園児との交流が出来た事により、心豊かな1日を送れた利用者様・保育園児の表情はとても大きな社会資源を獲得した事ができた。又、敬老会・クリスマス会にはご家族に参加をして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向を大事に、訪問看護・かかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受ける事が出来ている。	これまでのかかりつけ医を継続受診しており、家族が付き添う場合もあるが、基本的に管理者が通院支援を行っている。受診内容は電話等で家族に報告しており、職員は業務日誌と申し送りノートで確認している。緊急時は、まず管理者が訪問看護に指示を仰ぎ、対応する流れとなっており、些細な変化であっても早めの対応を心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な気づきであっても、訪問看護師に相談し、連携と情報の共有を図りながら、早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も関係が途切れないよう可能な限り面会に行き、病状の把握や病院関係者との連携を図っている。医療機関との情報の共有・交換については対馬版ケアパスを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の有り方については、説明。意向の確認はしている。必要に応じてご家族にも同行受診をして頂き、主治医と一緒に話し合いを進めて行くようにしている。が、現状ではスタッフの不安もあり看取りをする覚悟が出来ていない状況である。	入居時に重度化した場合の対応の指針を家族に説明しており、同意を得ている。事業所では医療行為を伴う場合は看取り支援を行わないこととしており、本人の状況に応じて主治医と家族と共に話し合いを重ね、他施設への移行等選択肢があることを伝えている。できる限り本人・家族の希望に沿えるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験・実践力はまだまだ身についてはいない。実践力が出来るように努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災においては消防訓練を行い、地域との協力体制作りにも努めている。自然災害訓練や自主訓練は実施していない。	年2回消防訓練を実施しており、内1回は消防署立会いの下、夜間想定総合訓練を行っている。また、近隣の川の氾濫を想定し、1階入居者を2階ユニットへ避難誘導する訓練を行っており、非常時持出し品も整備している。次年度は地域消防分団の訓練参加を予定しているが、今年度は地域からの訓練参加はない。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、地域との協力体制を築くことが必要と思われる。訓練への参加呼び掛け等工夫・検討に期待したい。また、地域消防分団との早期訓練実施が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるように、敬語を使い敬う言葉かけをスタッフで共有し、笑顔で対応できるように心がけて取り組んでいる。	職員の守秘義務に関しては、ビデオを使って勉強会を開催するとともに、誓約書の提出を求めている。日常のケアで不適切な言葉遣いがあった際は、その場で注意している。入居者の写真掲載について同意書を得ている。パッド類の保管箱には、イニシャルを記したり、面会簿を個人別にし、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話や相談しやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや希望を遠慮なく表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムに寄り添いながら穏やかに過ごせるように、その日の体調・気分・表情を伺いながら支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	HP受診・外出・誕生会等の行事毎は勿論の事、当日着用する洋服もその人その人のこだわりを大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレク・行事の際には昔馴染みの料理で話に花が咲いたり、下膳・テーブルの後片付け等一緒に行なっている。	献立は1ヶ月単位で作成しており、その日より臨機応変に変えている。おせちは手作りである他、敬老会やクリスマスは、仕出弁当やケーキを家族と共に味わっている。誕生日には、赤飯やお寿司で祝っている。夏祭には、入居者も交えてぼた餅を作り楽しんでおり、食事の時間が豊かなものとなるよう支援を行っていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握に努めている。又、飲み物のレパートリーも個人の好みや体調に合わせて共に、美味しく頂けるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の口腔内の状態を把握した上で、朝・夕の口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の要求や、排泄間隔に合わせ、出来るだけトイレで排泄できるように取り組んでいる。	基本的には、自立を目標としている。現在、おむつやリハビリパンツとさまざまであり、夜のみポータブルトイレを使用している人もいる。毎月のケア会議では、パッドを少なくする検討を行っている。パッド類は、外部の目に触れないよう工夫しており、管理者は、誘導の際は本人の自尊心に配慮した声掛けを行うよう職員の指導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをしたり、食物繊維や水分を十分に摂る事は心がけているが、慢性的な便秘の方はどうしても緩下剤でコントロールをさせて頂いている。(医師の指示もあり)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日は入浴できるように浴室の準備は行なっている。個人の体調や気分に応じて対応できている。又、バスクリンを使用して温泉気分を楽しんでもらっている。入浴場の手摺の設置は現在進行中。	週6日は入浴が可能である。冬場は、ヒートショック予防のため、脱衣所を予め温めている。入浴剤を使用し、リラックスできるよう配慮している他、入浴後はクリームを塗り保湿を心掛けている。1階と2階に浴室があるが、1階の浴槽が深く、現在、1階の入居者は全員シャワー浴のみであり、浴槽に浸かることができていない。	入浴は、一日の中で最もリラックスできる時間である。現在1階の入居者がシャワー浴のみであるため、浴槽に浸かることができるよう検討・工夫が待たれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて自由に休んでもらっている。又、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮、働きかけも行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、例えば高血圧の薬とバイタルチェック表を見ながら、定期受診時に血圧の低い・高いを訪問看護師及び主治医に伝え処方内容の検討を相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品・レクリエーション・季節の行事等、随時行いながら、気分転換や楽しみとなるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・美容室・お盆・お正月など、ご家族からの外出・外泊支援も協力してもらっている。	日常では、近隣を散歩している他、毎月の通院の際に外気に触れている。春には、事業所の近くの桜の名所に徒歩で出掛けており、紫陽花見物のドライブの際は、入居者の希望のコースを通っている。家族と一緒に外食に出掛ける人や盆や正月に外泊する入居者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ家族の意向を聴きながら自己管理をしておられる方もおられるが、管理が困難な方には預り金として、スタッフが管理の支援を行いながら、適宜買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離の家族や友人に電話をかける支援や、手紙の宛名の確認などの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清潔の保持に努めている。その他、明るさ・湿度にも気を配り、心地良く過ごせるように工夫をしている。又、季節の花をテーブルに飾ったり、月毎に壁の空間の飾りつけを変え、季節感を大切にしている。	両ユニット共に共用空間に開放感があり、居室やトイレの出入り口も広く、車椅子やシルバーカーの交差にゆとりがある。玄関の生け花や雛飾り等季節が感じられる飾り付けを行っており、入居者がテーブルを囲んでゲームや会話を楽しんでいる様子が窺える。職員が毎日清掃と温度や湿度の管理を行っており、快適な空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ等を複数活用し、気の合う入居者同士や職員との関わり、一人でくつろぐ時間が持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を可能な限り居室に持ち込んで頂くように御家族にもご協力いただき、本人様が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。	使い慣れたもの、好みのものの持ち込みは自由であり、冷蔵庫やテレビ、仏壇や家族写真等持ち込んでいる。ベッド等の配置も本人の動線に合わせて自由に配しており、転倒防止用のマットを足元に敷く等、本人に合わせた居室作りに努めている。また、クローゼットには避難時に備え、衣類等非常時持ち出し品を纏めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすく、わかりやすく、安全にも配慮しながら自立した生活が送れるよう配慮している。		